

自己研鑽と他者に頼ること

世界トップレベル大学等コース 第1期生 川野真樹子

所属：人文科学研究科表象文化論

留学時学年：博士前期課程2年

留学先：エクセター大学（イギリス）

実践活動：演劇学科での実技の授業と
グローブ座での研修

留学形態：休学留学・学位取得



『ヘンリー八世』の上演前に、クラスメートと

首都大学東京では、表象文化論教室の修士課程に在籍し、主に演劇と映画について研究しています。また、学部時代には劇団や映画サークルにも所属し、研究だけではなく、実地での演劇、映画製作活動も行っていました。もともと海外留学に興味があり、学部時代にはイギリスへ語学留学をしたこともありましたが、実際に研究を進める中で、演劇の本場であるイギリスの大学院で演劇学を学びたいという気持ちが強くなり、エクセター大学への留学を決めました。

留学にあたっては、奨学金の援助が必要だと認識していました。というのも、イギリスの大学院に留学するにあたり、必要な資金は自分で賄おうと決めていたからです。トビタテ！留学 JAPAN の第一期生の募集が、ちょうど奨学金を探していた時期と重なって始まったことから、この奨学金への応募を決めました。もともとの動機は資金援助の面が大きかったのですが、実際に援助を受け、事前研修や事後研修に参加したところ、様々な分野の学生と出会うことができました。自分の研究分野だけでなく、まったく違った興味を持っている人々と様々な角度から、ある物事について議論できる環境が整いつつあるのは、トビタテ！留学 JAPAN の大きな特徴のひとつです。

トビタテ！留学 JAPAN には、四つのコースがありますが、私はトップレベル大学等コースで留学しました。私の留学の一番の目的がイギリスの大学院で行われている演劇研究や演劇教育を知ることにあつたからです。また、今後の自分の研究のためには、修士号を取得することが重要だと考えていました。大学院への留学ということもあり、私は交換留学ではなく、正規学生としての入学を選択しました。イギリスの大学院では、一年間で修士号を取得することが可能であり、修士号を取得するためには正規学生としての入学が必須だったからです。また、エクセター大学の演劇科の課程は理論の授業と実技の授業との両方を受講することが可能でした。それに加えて、冬学期にはロンドンのグローブ座での研修が授業に組み込まれています。このように恵まれた環境で一年間、演劇の勉強ができるというのは大変魅力的でした。



修士号を取得することを目的としたため、留学中は、大学院での勉強に主軸を置いていました。大学院では、演劇の理論的な勉強に加え、授業の中でひとつの演劇作品を創作するような実践的な勉強も行いました。私は、シェイクスピアコースに籍を置いていたので、実践的な授業では、シェイクスピアの作品を実際に演じました。グローブ座での研修では、二週間で『マクベス』をクラスメートたちと上演し、また大学内でも『ヘンリー八世』を上演しました。その後は修士論文を執筆し、無事に修士号を取得することができました。その一方で、一年を通して大学と地域の人々による合唱団に所属したり、イギリス各地の演劇祭を巡ったりと授業外での活動も継続して行ってきました。

『ヘンリー八世』稽古中の一コマ

留学中や留学後を振り返ってみると、留学前の自分とはいくつか違ってきています。特にグローブ座での研修を終えた後には、自分に自信が付き、語学力も上がった実感を持ちました。これは、ほとんど英語ネイティブしかいない環境で必死になって勉強したり、グローブ座での『マクベス』上演にあたって、マクベス夫人を演じるために英語の発音を矯正してもらったりしたことの結果だと考えています。とにかく一年という短い時間の中で、必死になって勉強したこと、そして分からないことは、日本にいたとき以上に他者に頼ること、このふたつを心がけていたことが留学を成功させた理由だと思います。

この留学によって、自分の行う研究を様々な角度から見ることをより心がけるようになりました。これは、留学先での経験やトビタテ！留学JAPANでの出会いを通して、自分の研究に閉じこもるだけでは研究がうまくいくとは限らない、と痛感したことによります。留学とは、自らの立ち位置を知るきっかけでもあり、何か新しい視点を獲得するきっかけでもあると思います。だからこそ、今、留学をすることに意義があるのではないのでしょうか。

この経験を今後の研究に活かしていきたいと思っています。



グローブ座での『マクベス』上演後、クラスメートと